

コシヒカリの葉色が濃いほ場があります 1回目穂肥前に生育診断を!

令和2年7月9日
長岡農業普及指導センター
稲作情報 No.5

電話 0258-38-2554
E-mail ngt111440@pref.niigata.lg.jp

栽培管理のポイント

- コシヒカリの穂肥1回目は、生育診断をして穂肥の時期と量を定める。
※本年は葉色が濃いほ場が目立ちます。コシヒカリで生育量が大きい（草丈長く・葉色濃い又は茎数多く・葉色濃い等）ほ場は、1回目穂肥の施用時期・量を遅め・控えめにするなど慎重に判断する。
- 穂肥2回目は、確実に施用する。
- 基肥一発肥料栽培で、葉色が急速にさめ、出穂期の葉色（SPAD値）が33を下回ると予想される場合は、追加穂肥を施用する。
- 農道・畦畔の雑草管理を徹底する。（カメムシ対策）

1 生育状況、出穂期予想と穂肥時期・量のめやす（7月8日現在）

- (1) コシヒカリの生育は、指標値(めやす)に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや多い」、葉数は「早い」、葉色は「濃い」です。
- (2) 出穂期は、昨年より遅く、平年より1日程度早い予想です。
- (3) 移植時期やほ場ごとに生育差があるので、ほ場ごとに幼穂長を必ず確認してください。

表1 出穂期予想と穂肥時期のめやす（長岡・平場地域）※

品種名	想定する移植期 (稚苗の場合)※	幼穂 形成期	出穂期	穂肥時期のめやす()は出穂前日数	
				1回目	2回目
コシヒカリ	(5/10植え)	7月11日	8月3日	7/16~19	7/24
コシヒカリ	(5/15植え)	7月13日	8月5日	7/18~21 (18~15)	7/26 (10)
コシヒカリ	(5/20植え)	7月15日	8月7日	7/20~23	7/28
こがねもち	(5/5~10)	7月6日	7月29日	7/11~14 (18~15)	7/19 (10)
越淡麗	(5/10~15)	7月16日	8月8日	7/21 (18)	7/29 (10)
新之助	(5/10~15)	7月17日	8月9日	7/19~22 (21~18)	7/28~30 (12~10)
あきだわら	(5/10~15)	7月20日	8月12日	7/18~20 (25~23)	7/29 (14)

※中苗の場合は稚苗より5日遅い移植期を想定。

表2 穂肥量のめやす（合計量）

品種名	施用量 kg/10a	品種名	施用量 kg/10a
コシヒカリ	1~2.5	越淡麗	2
こがねもち	1~3	新之助	2~3
		あきだわら	5~7※

※1回目 3~4kg、2回目 2~3kg

多収性品種「あきだわら」の1回目穂肥は遅れないようにする。

2 コシヒカリの1回目穂肥施用～生育診断をして時期と量を決める

- (1) 草丈が長く、葉色が濃い場合 → 倒伏の危険
- (2) 茎数が多く、葉色が濃い場合 → 籾数過剰の恐れ

施用時期を遅らせたり、施用量を控えめにしましょう。

3 コシヒカリの2回目穂肥施用～確実に施用

- (1) 1回目穂肥を施用できなかった場合においても、2回目穂肥は稈長の伸長に影響しないため確実に施用しましょう。
- (2) 1回目穂肥が出穂期18日前より遅れた場合は、1回目穂肥を施用した日の7日後をめやすに2回目を施用しましょう。

4 出穂期間近での高温が予想された場合

高温が予測される場合は、3回目の穂肥（追肥）を施用しましょう。

表3 高温が予想される場合の3回目穂肥のめやす(分施体系 標準的な地力の圃場)※

栽培体系	判断時期・葉色のめやす	施肥時期・施肥量	用いる肥料
一般栽培 (化学肥料体系)	出穂期3日前の葉色 SPAD値31以下のとき	出穂期3日前 窒素成分1kg/10a以下	化成肥料
特別栽培 (減化学肥料栽培)	出穂期6日前の葉色 SPAD値33以下のとき	出穂期6～3日前 窒素成分1kg/10a	有機100%肥料

※ 低地力ほ場については、農業普及指導センターやJAに相談する。

5 基肥一発肥料を使用して葉色の低下が進んでいる場合

基肥一発肥料を使用している場合でも、葉色の低下が進んでおり、出穂期の葉色がSPAD値33を下回ると予想される場合、出穂10日前までに窒素成分で1kg/10aの追加穂肥を検討しましょう。

6 病害虫対策

(1) 斑点米カメムシ類

令和2年6月30日にカメムシ類による斑点米の多発生に関する注意報が発表されています。雑草が出穂・結実しないよう農道・畦畔の除草を徹底しましょう。水田内雑草も忘れずに除去しましょう。

(2) いもち病

いもち病に感染しやすい天候が続いており、長岡管内で葉いもちの発生が確認されています。早期発見に努め、発病を確認したら、ただちに防除を実施しましょう(少発生地のコシヒカリBLは除く)。

(3) 紋枯病

窒素の過剰施用を避け、過繁茂にならないように施肥管理を適切に行いましょう。前年多発生したほ場や茎数が過剰なほ場では多発生しやすいため、発生状況を確認して防除を実施しましょう。

- 農作業事故に注意しましょう。特に草刈り作業は周囲に気を配ってください。
- 農作業時の熱中症に注意をしましょう。こまめな休憩と水分補給が大切です。

【参考】コシヒカリの1回目穂肥診断方法

(1) 幼穂長を測定する。➡ 幼穂形成期・出穂期を予測する。

- ① ほ場内の平均的な生育の株を3株選ぶ。
- ② 株の中で長い方から2～3本の茎を株元から引き抜き、幼穂長を測る。
合計6～9茎の幼穂長で出穂前日数を予測する。(表5)

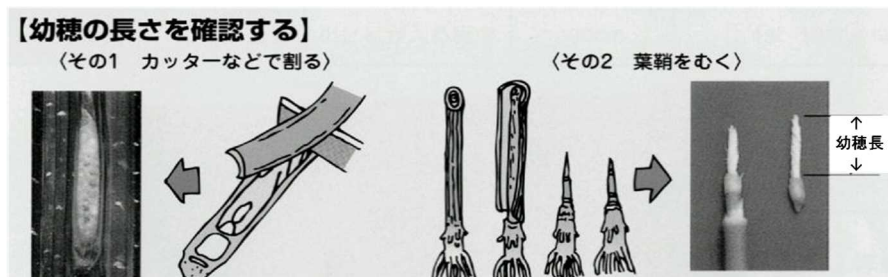


図1 幼穂長の確認方法

表4
幼穂長と出穂前日数の関係(コシヒカリ)

出穂前日数	幼穂長
23日	0.1cm
20日	0.2
18日	0.5～1.0
12日	4.0～6.0

(2) 幼穂長0.1cmの頃(幼穂形成期)に草丈・茎数・葉色を測定する。(10株平均)

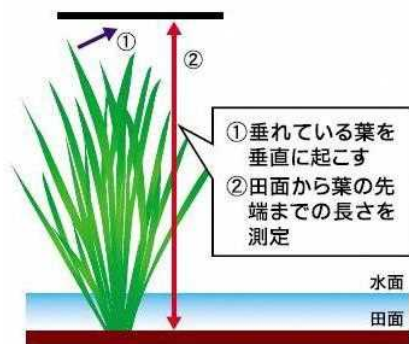


図2 草丈の測り方

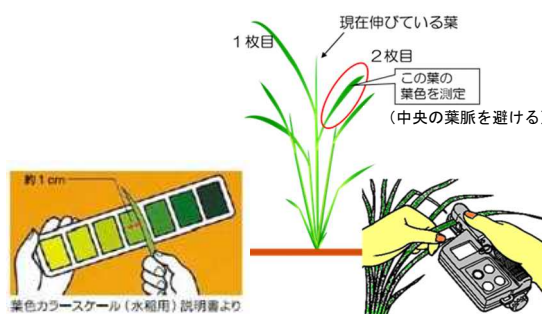


図3 葉色の測り方

(3) 穂肥診断(図4、表5)～草丈と葉色から診断～

【草丈が長く・葉色が濃い場合】→倒伏防止のため、1回目穂肥は遅め控えめとする

① 「幼穂形成期の生育量」＝「草丈」×「葉色」を計算する。

(SPADや葉色板がない場合は、各地に設置されている生育調査ほ場・葉色診断ほ場の看板を参考にして葉色値を推定する。)

② 草丈と葉色を図4にあてはめ、生育量がどの位置か(A～C)を確認する。

有機50%肥料体系では実線——が境界、化学肥料体系では点線……が境界。

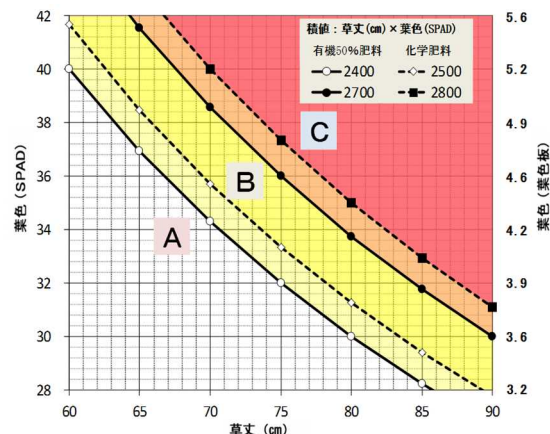


図4 幼穂形成期の生育量(草丈×葉色の値)早見グラフ(図中の曲線は積値[草丈(cm)×葉色(SPAD)]を表す)

- ③ 幼穂伸長期間の気象予報を確認し、表5で穂肥の施用時期と施用量を決める。
 (幼穂伸長期間：幼穂形成期～出穂期の期間、おおむね7月中旬～8月上旬)

表5 コシヒカリ1回目穂肥施用のめやす

幼穂形成期の生育量 [草丈cm × SPAD値]		生育量早見 グラフ内の 位置	幼穂伸長期間の気象予報別の穂肥対応		
			低温・少照・多雨	平年並	高温・多照・少雨
有	2400未満	A	○～△ 時期遅め、 量を控えめ	◎ 出穂18日前 に基準量	◎ 出穂18日前に 基準量
化	2500未満				
有	2400～2700	B	× 施用しない	× 施用しない	○ 出穂15日前に 基準量
化	2500～2800				
有	2700以上	C	× 施用しない	× 施用しない	×～△施用しない 異常高温の場合は 15日前に基準量
化	2800以上				

※ 有：有機50%肥料使用、化：化学肥料使用

(4) 穂肥診断 ～茎数と葉色から診断～

【茎数が多く・葉色が濃い場合】

→過剰籾数による品質低下を防ぐため、1回目穂肥は遅め控えめとする。

○7月10日の生育のめやす

- ・ 茎数：440～460本/m²
(50株植えて29本/株)
- ・ 葉色 (SPAD)：36

籾数 28,000粒/m²をこえると
乳心白粒が増加！

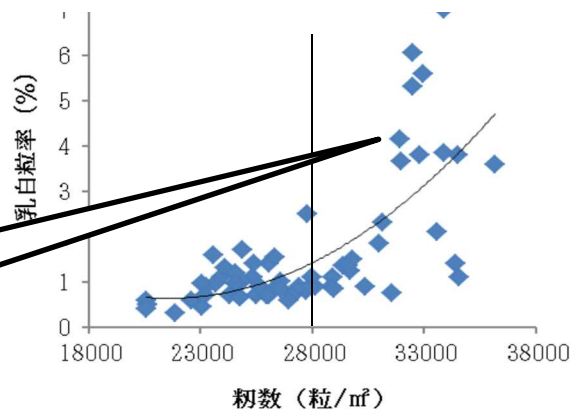


図5 m²当たり籾数と乳白粒率の関係